



(令和7年度)

南城市英語教育の取り組み

【統括目標】

人が育ち、人が活きる、
心豊かな人材を育む教育・
文化のまちづくり

南城市教育委員会
(教育指導課)

住所：〒901-1495
沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
TEL：098-917-5361
FAX：098-917-5436



【1】 英語教育の充実

1 教育課程特例校の推進	小学校1、2年生を対象に、文部科学大臣の教育課程特例校の指定を受け学習指導要領等の教育課程の基準によらない本市独自の外国語活動の教育課程を編成し実施する。
2 JET及びALT事業の充実	英語教育の充実に向け、英語コーディネーターを配置し、ALTとのコミュニケーションの充実を図る。英語に関する興味・関心を高め、異文化理解教育と英語教育の充実を図る。
3 英語習得への意欲の向上	(1)英検受検者への受検料助成(2分の1)事業を実施し、上記2項目の推進と英検受検とを相乗的に関連させる。 (2)中学校では、スキットコンテストを開催し日頃の学習成果を発揮できる機会を設ける。 (3)中学校でオンライン英会話を実施し、コミュニケーションへの意欲の向上を図る。 (4)小学6年生に英検 Jr.シルバーテスト(リスニングのみのテスト)を行い到達度の確認をする。
4 教職員研修の充実	(1)小中連携授業参観 (2)小学校外国語講座 (3)中学校研修 (4)ALTミーティング

【2】 国際性豊かな人材の育成

海外短期留学の充実 (生涯学習課担当)	海外で学習する機会を与えることにより、心の豊かさや国際感覚を育み、国際性豊かな人材を育成することを目的として、市内在住の中学生、高校生を対象に、米国ワシントン州立大学に約3週間、海外短期留学生として派遣する。
ESLキャンプの充実 (生涯学習課担当)	英語学習の機会を与えることにより、自己表現力や国際感覚を育み、国際性豊かな人材を育成することを目的として、市内在住の小学生(5・6年生)、中学生を対象に、米国大学から招聘した講師による約1週間の宿泊型英語授業等を実施する。

1 教育課程特例校の推進

① 「教育課程特例校」の経緯

平成 19 年度から文部科学省より「研究開発校」の指定を受け、小中連携による 9 年間の統一した英語教育を実施。平成 23 年度から 3 年間、研究開発校の指導内容・指導体制を継承・発展する目的で文部科学省より「教育課程特例」の指定を受け、小中一貫した音声及び活動重視の英語教育の授業実践に努めた。平成 26 年度から現在、小学校においてこの事業を継続して行っている。

② 目標と実施

コミュニケーション能力の素地の育成を目標に、小学校第 1～2 学年で新設教科「外国語活動」を各学年年間 15 時間実施する。*生活、音楽、図画工作、体育から計 15 時間、「外国語活動」に充てる。

学年	小学校第 1 学年	小学校第 2 学年
教科名 (削減時数)	生活 (- 3)	生活 (- 3)
	音楽 (- 4)	音楽 (- 4)
	図工 (- 4)	図工 (- 4)
	体育 (- 4)	体育 (- 4)

③ 特例校のメリット

- ・小学校での外国語活動の授業時数が統一して確保できる。
- ・市内小学校において、統一した指導体制を取ることができる。
- ・全小学校に市雇用 ALT または JET を配置し、外国語活動の充実が図れる。

2 ALT 事業の充実

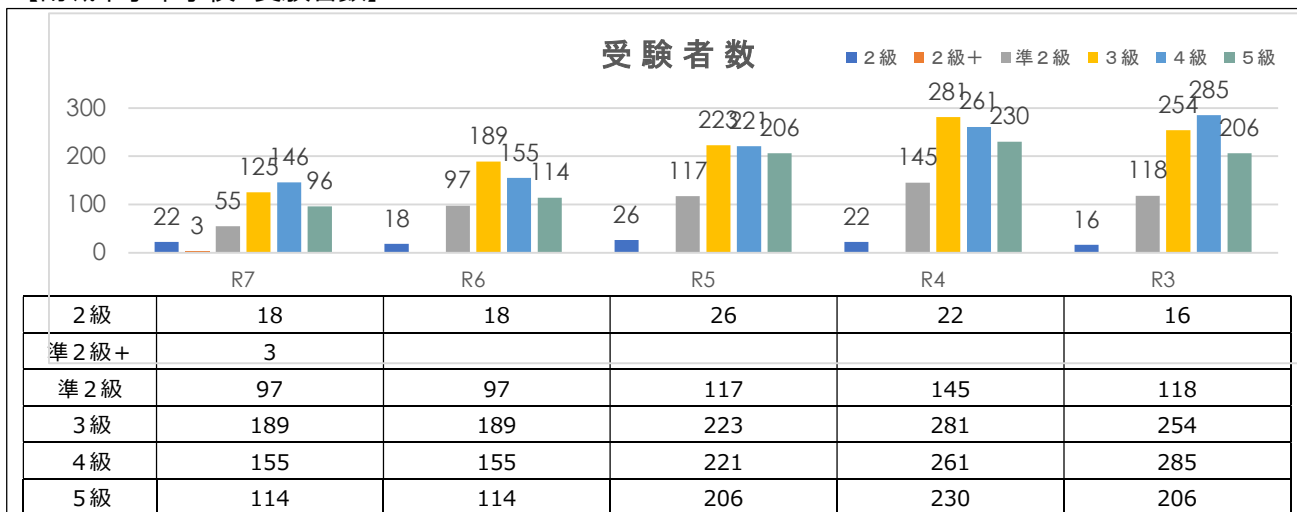
英語教育の充実に向け、英語コーディネーターを配置し、ALT とのコミュニケーションの充実を図る。また、市内全小中学校に ALT を配置し、児童生徒の英語教育に関する興味・関心を高め、異文化理解教育と英語教育の充実を図る。

3 英語習得への意欲の向上

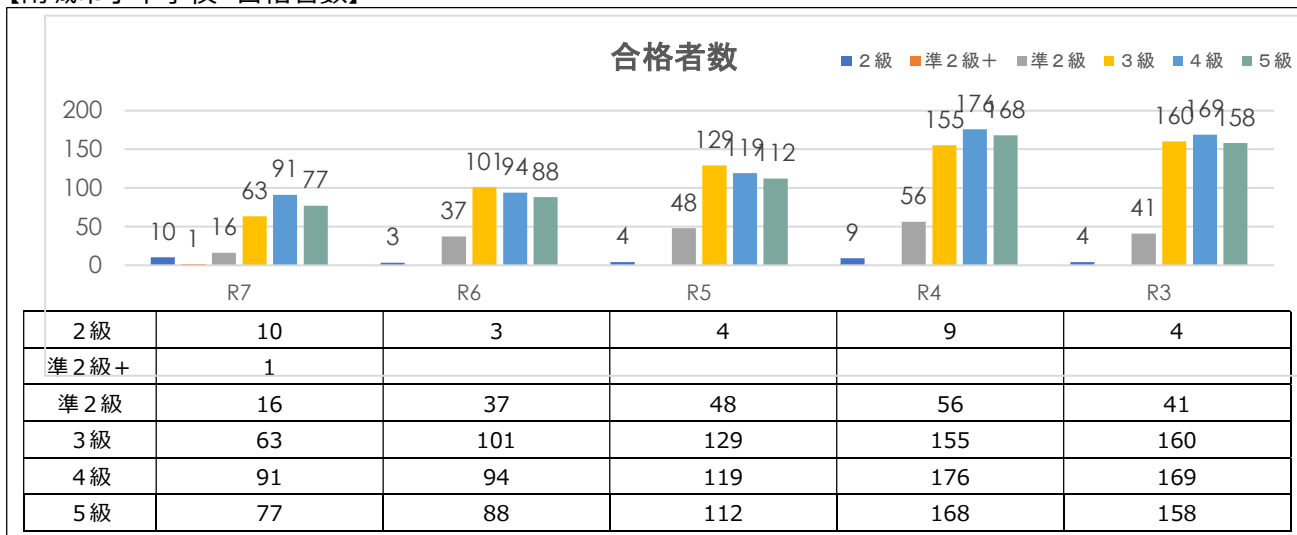
(1) 英語受検者への受検料助成 (2 分の 1) 事業

平成 23 年度から、沖縄県対米請求権事業協会の支援により、児童生徒の英語コミュニケーション能力を図る一助として、市内小中学生の英検検定料の半額助成事業を行っている。令和 7 年度は、中学生 2 回、小学生 1 回の受検料半額助成を行っている。

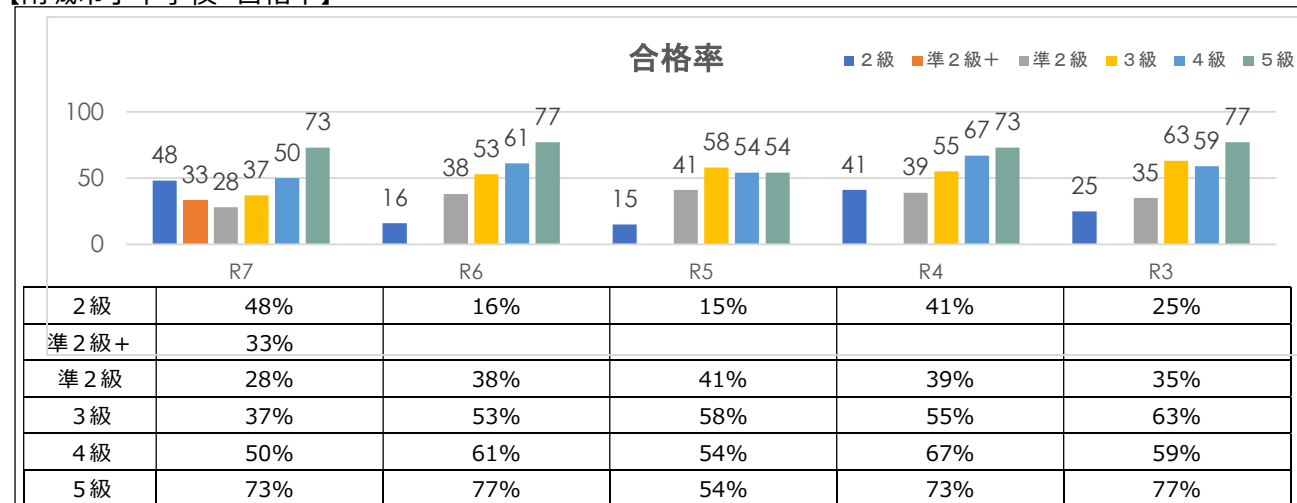
【南城市小中学校 受験者数】



【南城市小中学校 合格者数】



【南城市小中学校 合格率】



※「準2級+」 → 令和7年度より新設された級

(2)南城市中学生英語スキットコンテストの開催

南城市内の中学生に、日頃の学習の成果を発表する機会を提供することにより、学習意欲の高揚と言語表現や思考力などの多様な能力の向上を図ることを趣旨とする。

Skit（スキット）とは、日本語では寸劇（短い劇）という意味で、生徒一人一人の発話量が増え、英語による表現力や語彙力の向上が期待できる。

令和7年度は昨年度から引き続きシュガーホールでの開催となった。中学1年生の部に4チーム、中学2年生の部に4チームがエントリーし、身近な話題からメッセージ性のある演題まで、生徒の思いを基に作り上げられた様々なスキットが繰り広げられ、日頃の学習の成果を発揮する場となった。

(3)中学校においてオンライン英会話（スパトレ）を継続実施

1人1台端末を活用し、生徒と外国人講師が1対1で25分間オンライン英会話を行う。令和7年度は、全中学生が2回受講。

(4)小学6年生 英検 Jr.シルバーテスト（リスニングのみのテスト）

小学校外国語活動の成果を検証し、英語学習の動機付けに役立てることを目的とする。

年度	受験者数（人）	平均	標準偏差
2025	543	75.0	11.9
2024	487	75.6	12.4
2023	521	74.2	11.3

4 教職員研修の充実

(1)小中連携授業参観

中学校区（玉城地区、知念地区、佐敷地区、大里地区）において、小学校の外国語授業を中学校英語教諭が授業参観を行い、「言語活動を通じた」学びを共通確認することで、小中の学びの接続を図った。

(2)中学校研修

南城市内5中学校の英語教諭による中学校英語部会では、年3回集まり、授業づくりや指導方法について研修を重ね、授業改善を図った。今年度は、第1回目にリーディングDX推進校である嘉手納町立嘉手納中学校から講師をお招きし、生成AIを効果的に活用した英語の授業展開について学んだ。

(5)ALT ミーティング

TTでの授業の進め方を確認したり、「小中連携」をテーマに授業参観の機会を設けたりした。また、授業実践発表を行い、ALTの指導技術の向上を図った。